

## マックス・E・アマンの 世界馬術界展望

マックス・E・アマン氏は政治ジャーナリストから馬術界に転身し、障害飛越のワールドカップを創始しオーガナイズするなど馬術界に多大な貢献をしてきた人物だ。そのアマン氏が、世界の馬術界の過去から現在までの話題を縦横に語る。

# サウジアラビアの障害飛越チーム 銅メダル獲得 快挙の舞台裏



ロンドンオリンピックのアブドゥラ・アル・サウード王子&ダヴォス号。©Kit Houghton/FEI

**今**年のロンドンオリンピックでサウジアラビアがチームで障害飛越競技の銅メダルを獲得したが、この時、近年活躍しているサウジアラビアの2人のライダーを思い出した人がいるかもしれない。それは、2000年のシドニーオリンピックで銅メダルを受賞したハレド・アル・エイドと10年のケンタッキー、レキシントンで行われた馬術世界選手権大会で2位だったアブドゥラ・ワリード・アル・シャルバトリだ。

サウジアラビアはこの2年間でトップクラスの馬を購入するため6千万ユーロを費やしたとまことしやかに喧伝されているが、驚くにあたらない。このオリンピック銅メダルチームにはサウジアラビア王の孫であるアブドゥラ・アル・サウード王子がいたのだから。メディアはこぞって王族とその資金力を今回の戦績につなげ、サウジ馬術基金には無尽蔵に金があると書き立てた。

つまり、サウジアラビアの活躍の理由をジャーナリストはその資

金力と王室のサポートのみに単純化し、サウジの過去20年以上の馬術の歴史を無視した。メディアがサウジの努力に触れなかったのはその歴史を知らないことによる。サウジアラビアは89年、カリフォルニアで障害飛越の選手育成を始めた。サウジらしくゆっくりにしたペースで世界を目指すのだが、このプロジェクトを裏で支えていたのがファイサル・ビン・アブドゥラ・ビン・ムハンマド・アル・サウード王子だ。かつてFEI執行委員のメンバーのひとりだった王子はサウジが必ず世界に打って出ることを信じ、長期にわたってチームを支えたのだ。

89年、カリフォルニアのサンディエゴ北部にトレーニングセンターが開設された。ファイサル王子はこのプロジェクトの有力な後ろ盾として力を尽くした。当時、王子は王室警備隊の長官を務めていた。91年から99年の間、FEIの執行委員を務め、現在はサウジアラビアの教育大臣を務めるとともに、馬術関連の事業を推進するため2010年に創設された馬術基金の代表にもなっている。

89年にこのサンディエゴの施設がオープンした際、アメリカのベルニエ・トラウリ氏が最初のコーチに就任した。施設の建設資金は設立されたばかりのサウジアラビア馬術連盟スポーツ省から個人からの拠出によるものだ。ちなみに、サウジアラビア馬術連盟はスポーツ省から予算が割り振られた。この施設で最初にトレーニングを始めた選手の中にハレド・ア



ロンドンオリンピックでチーム銅メダル、個人としても4位に入賞したサウジアラビア代表のカマル・バハムダン選手&ノープレス・デ・テス号。©Kit Houghton/FEI

ル・エイド選手とラムジー・アル・ドゥハミ選手がいた。

**サウジアラビア馬術界の  
世界への足掛かり**

95年にはサウジの障害飛越チームの3人、ハレド・アル・エイド選手とその弟、アル・ドゥハミ選手、そしてカマル・バハムダン選手はカリフォルニアからドイツ、ミュンヘンのショッケメーレ厩舎に移る。この3人は96年のアトラントオリンピックへの出場権を得た。当時、サウジチームの馬は2頭のみがサウジの所有で、残りはポール・ショッケメーレから借りての出場だった。その時のポールのビジネスパートナー、ペーター・ウィントン（現在はクアラ

ンプールのCSI-Wのオーガナイザーを務める）がアトラントにおけるサウジのコーチを務めた。チームの4人のうち3人は完走するが、残りの若きアル・エイドには荷が重かった。ハレド・アル・エイド選手とアル・ドゥハミ選手は健闘したが、バハムダン選手の走行がたたり、サウジチームのオリンピックデビューは18位という結果に終わる。

アトラントのあと、このチームはいったん解散した。そして、バハムダンは自らの資金でトレーニングのためカナダに移る。ほかの選手はまずベルギーのネルソン・ペソア厩舎に落ち着き、ついでフランスに移った。そして2000年のシドニーで彼ら3人はふた

び集結する。そして、ファハド・アル・ゲイド選手が4人目に選ばれ出場した。アル・エイドが2つのラウンドでペナルティ4、0を記録にしたにも関わらず、彼らはチーム戦を戦い切ることができた。アル・エイドだけが個人戦の決勝に進んだ。そして、2000年開催のこのオリンピックで10月1日に障害飛越の決勝が行われサウジに奇跡もたらされた。4ポイントで並ぶ3選手がメダルを争いジャンプオフに登場した。オランダの2選手、イェルン・ドゥベルダム選手とアルベルト・フォールン選手、そしてアル・エイド選手だ。フォールン選手が第1走者で4ポイントのペナルティ、44・72秒で戻り、ドゥベル

ダム選手はクリアラウンドを達成するが50・65秒と走行タイムで少々下回る。そしてアル・エイド選手は最終走者としてより早く、さらにクリアラウンドで戻らなければならぬ。しかし、結果は2落ト、走行タイムはフォールン選手に少し下回る44・86秒。最終的に、アル・エイドに銅メダルが授与された。これはサウジアラビアが得たふたつ目のメダルだった。(注\*)

**国を挙げての努力が結果**

03年のプレオリンピックたるアーンで常連国外の日本、韓国、ニュージーランドが翌年のアテネオリンピックの出場枠を獲得する。それぞれの国が3選手枠を得るが、サウジアラビアは2選手枠を

得て、バハムダム選手と、アル・ドゥハミ選手を送り込むが賞レースにはかすりもしないという結果だった。

06年、サウジチームはオランダの審判であり大会のオーガナイザーも務めるロジエール・バン・イエルセル氏をコーチとして迎え、この2年後にはオリンピックに出場したベルギーの、スタン・ファン・パエシエン選手をトレーナーとして迎えた。同時にベルギーで新たに恒久的なトレーニング施設を借りたのだ。この施設はブリュッセルの南、レベックにあるハラス・ドゥ・ウイスベックだ。

08年香港でバハムダム選手とアル・ドゥハミ選手は4度目のオリンピックを経験する。このときのチームメイトはファイサル・アル・シャラン選手とアブドゥラ・アル・サウード王子だ。このチームは11位、そして個人としてはアル・ドゥハミ選手が最高位22位という結果に終わっている。サウジの障害チームの抱える問題は資金不足とオリンピックを戦える高いレベルの馬を持っていないことだった。



10年のアジア選手権で金メダルを獲得したラムジー・アル・ドゥハミ選手&ベイヤード・V・デヴィア・T号。© FEI

挙げた。サウジの選手層がこの期間に厚くなってきたのだ。ラムジー・アル・ドゥハミ選手とカマル・バハムダム選手は現在、40歳と42歳であり、96年から12年までの5連続でオリンピックに出場してきた。そして、アル・エイド選手とアル・サウード王子が2度のオリンピックを経験し、



シドニーオリンピックでサウジアラビアに初のオリンピック銅メダルをもたらしたハレド・アル・エイド選手&カシャム・アル・アアン号。©Kit Houghton/FEI

10年にファイサル・アル・サウード王子が代表の地位に就くことにより潤沢な資金を得てサウジ馬術基金が生まれたのだ。この基金によってレベックのトレーニングセンターに十分な資金が調達され、レベルの高い馬の購入が可能になった。

そしてこの年、レキシントンで開催された世界馬術選手権大会でサウジの障害チームは二度目の奇

跡に遭遇する。この時のサウジチームの中で大きな大会への出場経験がもっとも無いアブドゥラ・ワリード・アル・シャルバトリ選手が決勝4人に残ったのだ。そして、最終の競技でこの4人が馬を変えて走行するのだが、この結果なんと銀メダルに輝いた。そして、チームとしては8位という好結果だった。

11年、カタールで開催された第12回パン・アラビック大会でサウジアラビアはエジプト、カタール、アラブ首長国連合を下し、チームで金メダルを獲得した。

そして、ご存知の通り今年のロンドンオリンピックではチームで銅メダルを得た。これはサウジのベストライダー、プレスリー・ボーイ騎乗のハレド・アル・エイド選手が怪我のため欠場しながらの快

**マックス・E・アマン**

1938年、スイス生まれ。1964年に渡米しニューヨークの国連本部詰め外国人特派員として主に政治関係のジャーナリストとして活躍。69年に「スイス・アメリカン・レビュー」紙の編集長に就任。73年にスイスに帰国し、「ルヴェルン新聞」に編集長として迎えられる。そのかわり、馬術競技観戦が趣味だったことから馬術関連の記事も手掛け、翌74年に国際馬術ジャーナリスト連盟(AEJ)の会長に就任。78年新聞社を退社。以降、馬術のさまざまな大会でディレクターを務めるなど、多大な貢献をしてきた。

(注\*) このシドニーオリンピックでサウジアラビアのハディ・スリアン・アル・ソマリ選手は陸上男子400メートルハードル競技で銀メダルを獲得し、これがサウジ史上初のメダルとなる。